

【運営方針2】実践教育の充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】積極性や企画力、技術力、経営管理能力、コミュニケーション能力等、経営者としての資質の向上

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
1 少人数制や多様な進路に沿った濃密な学習支援	(1)進路決定率:100% (2)就農率:60%	① 少人数制による濃密な学習支援(継続) 各学科とも少人数制となっており、専攻科目の講義・実習においては学生の習熟度に応じた濃密指導を行い、基礎から実践的な知識・技術の習得を図る。  ② 志望進路に沿った学習支援(拡充) 学生の志望進路に応じて、これまでの就農、就職、進学に加えて、新たに雇用就農コースを設定し、志望進路実現に向けてきめ細かく支援する。 また、早期に進路が決定するよう農業系学科では、農業法人や農業・食品関連企業を招いて就職相談会を開催し、雇用就農や企業就職に関する情報の収集と就職に向けた意識付けを図る。林業経営学科では、林業・木材関連団体が開催する合同就職説明会への参加とインターンシップを実施する。  ③ 副専攻基礎実習の設置(継続) 自らが専攻する学科以外について、実習等を通して基礎的な知識や技術の習得、農産加工品製造の基礎知識の学習を通して、農林業について幅広い視野を身につける。	・各学科2～13名の少人数制で講義・実習を行い、学生の習熟度に応じた濃密指導を実施した。 ・講座選択や進路決定等にあたっては、学生や保護者との面談を実施した。  ・就農を目指す学生は「就農講座Ⅰ・Ⅱ」、就職を目指す学生は「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」、大学編入を目指す学生は「英語Ⅰ・Ⅱ」、「応用英語Ⅰ・Ⅱ」とそれぞれの進路に合わせた科目の選択が可能となっている。また、今年度も「就農講座」と「ビジネス基礎講座」が合同で、農業法人代表者等からの講話を実施した。 ・就職を志望する学生を対象に、農業法人や農業・食品関連企業を招いての就職相談会を3回開催した。林業経営学科でも林業関係団体が主催する合同就職相談会に1学年全員が参加し、就職情報を収集した。 ・就職試験や4年制大学3年次編入等の試験内容に応じ、小論文や面接、TOEIC受験についても随時指導している。  ・1学年全員が、就農後の複合経営や6次産業化の導入に向けて、自らの専攻学科のほかに「副専攻学科」を選択し、実習を通して基礎的な知識や各作業のポイント、農産加工品の製造等を含んだ	(1)・・・C 進路決定率:100%  (2)・・・C 就農率:60.7%	・今後とも少人数体制による講義、実習を維持し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・担任は学生との2者面談や保護者を交えた3者面談を行い、学習や寮生活等の悩みを把握し、的確な進路決定に努めた。また、学生には必要に応じて専門家によるキャリアカウンセリングをすすめ、進路決定を支援した。 ・今年度から進路に関する講座は、雇用就農コースを追加して全4コースとしており、農業法人への就職に対応した。来年度も、学生のコース選択・変更にも柔軟にできるよう取り組んでいく。  ・今年度卒業生の現在の進路状況は、下記のとおりとなった。 ◇就農 37名(即就農13名、農業法人等への就職13名、研修後就農2名、林業・木材産業への就業9名) ◇就職 20名(公務員等4名、農協3名、農業・食品関連12名、林業関連1名) ◇進学 4名(4年制大学3年次編入3名) ・就農及び林業・木材産業への就業率は、昨年度の61.7%とほぼ同じ60.7%となった。 ・来年度も、「就農講座Ⅰ・Ⅱ」では複数の講師が連携して、基礎から農業経営までの知識習得を図る。 ・「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」では、採用試験の内容に合わせて、総合適性検査や小論文、面接等の指導を行う。さらに農業法人就職希望者に対応する「雇用就農コース」では、農業法人代表者の講話等を実施する。 ・「英語Ⅰ・Ⅱ」では、各大学の編入試験科目に対応した指導を実施する。また、編入試験への対応として、昨年度から取り組んでいる「TOEIC」の教材活用を継続し、英語力の向上を図る。 ・学生が的確な進路決定ができるよう、農大卒業生(就農者・農業法人就職者、就職者、進学者)に講師を迎え、自らの体験談を話してもらい進路ガイダンスを開催する。さらに、今年度開催した「農業法人と農大生との就職相談会」の開催や「森林の仕事ガイダンス」への参加とインターンシップの実施により、学生と農業法人、林業事業者とのマッチングを図る。  ・学生は、本来の専攻学科のほか、卒業後の複合経営や進路と関連性の高い「副専攻学科」を選択するとともに、6次産業化の理解を深めるため全学生が農産加工について学んだ。 ・来年度は、新設される乳製品製造施設を活用しながら乳製品製造実習を実施する。
2 経営感覚やコミュニケーション能力の醸成	(1)実施回数:20回	① 販売実習による経営能力・コミュニケーション能力の向上(継続) 農林経営者としての企画力を養成するため、定期的に「農大市場」を開催するほか、関係機関が企画するイベントにも積極的に出店する。 また、山形県アンテナショップや首都圏の果実専門店、卸売市場等での販売実習や調査を実施する。	・今年度は「農大市場」を5回開催したほか、kitokitoマルシェ、山形県農林水産祭、ゆめりあ産直フェア等へ出店した。各学科で取り組んだ販売実習・市場調査は以下のとおり。 (稲作経営学科) 卒論成果品の在来作物「栄作糯」の試食アンケートとわら細工ワークショップの開催 (果樹経営学科) イベント出店によるおうとう、ブルーベリー、ぶどう等卒論成果品のアンケート調査、東京都中央卸売市場・都内小売店での販売動向調査、宮城農大祭での販売実習、ふじりんごの販売会(野菜経営学科) 東京都中央卸売市場や量販店を訪問しての流通動向調査、各県アンテナショップにおける農産物・農産加工品の生産・販売の動向調査(花き経営学科) 首都圏や県内の生花市場、仲卸、生花店における流通動向の調査、「やまがたフラワーフェスティバル」における「寄せ植え教室」「アレンジメント教室」での指導(畜産経営学科)農大市場での食肉販売実習、食肉フェスティバルでの販売実習、先進事例の視察研修(農産加工経営学科)東京都板橋区大山商店街での販売実習と卒論成果品のアンケート調査	C 実施回数:21回	・農大市場をはじめとした様々な販売実習は、学生自らが生産した農産物、農産加工品の商品を説明し、消費者の声を聞く機会であり、経営能力・コミュニケーション能力の向上につながっている。また、新庄市内で毎月開催されるkitokitoマルシェにも学生サークルが主体となって参加し、地元生産者等との交流、情報交換を行なっている。これらの機会を生かして卒論成果品のアンケート調査等を実施し、今後の農畜産物生産や商品改善にも生かしている。 ・果樹・野菜・花き経営学科と農産加工経営学科では、首都圏の市場や小売店等を訪問しての流通動向調査を実施している。これらは、学生が県産農産物の評価に直接聞き取る貴重な機会となっており、学習意欲の喚起につながっている。これら調査は、1年生では卒論の計画作成段階、2年生では卒論のとりまとめ実施段階であるため、卒業論文の試験内容や考察をまとめる上で参考となっている。 ・農産加工経営学科で今年度実施した都内商店街での販売実習は、県産農産物を知らない客を相手に、商品説明や接客しながらの試食、店舗レイアウトの工夫など、実践的な体験学習ができた。 ・来年度も、各学科の販売実習や先進事例調査が、より実施しやすく、研修成果が高まるよう、柔軟な日程設定が可能な教育計画を編成する。
3 成果発表会等への積極的参加	(1)全国レベルでのプロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞	① 全国規模の発表会等への参加(拡充) 日ごろの学習成果の発表の場として、東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞作文の部及び論文の部での上位入賞を目指す。 また、今年度は毎日農業記録賞に初めて応募する(新規)。	・卒業論文には2学年全員が取り組み、上位大会への審査会が12月、発表会が1月に終了し、東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会に代表学生3名が出場した。また、意見発表の部には、校内発表会を経て2名の学生が出場した。東日本大会では各部門で上位に入賞し、全国大会に出場した。 ・ヤンマー学生懸賞論文・作文には、大学生・大学院生も多数応募する「論文の部」に本校から3点応募した。また、「作文の部」には全学生が取り組んだ。 ・林業経営学科では、森林・林業技術交流発表会(主催:林野庁東北森林管理局)に参加し、卒業論文の成果を発表した。 ・今年度新規取組みとして、毎日農業記録賞にも計画どおり応募した。 ・10月に本県で開催された「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」で本校学生が担い手メッセージを発表した。	B 東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会での上位入賞 ヤンマー学生懸賞論文・作文での上位入賞	・東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表・意見発表では各部門で優秀賞を受賞して2名が全国大会へ出場し、プロジェクト発表で、最優秀賞・農林水産大臣賞(第1位)を受賞した。 ・ヤンマー学生懸賞論文・作文の論文の部では特別優秀賞(第2位)と優秀賞(第3位)を受賞した。また、作文の部では、3名が銅賞(第3位)を受賞し、全国大会で表彰された。来年度も、論文の部と作文の部に積極的に応募する。 ・毎日農業記録賞では、3名全員が「山形支局長賞」を受賞し、表彰を受けた。 ・卒業論文の実施にあたっては、関係機関、生産者、流通関係者等の協力・助言を受けながら取り組む。 ・「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」では、本校学生が、将来の本県農業の担い手代表として、地元・天童市の「高揃ハッカ再生プロジェクト」への参加を通して、農業の魅力を発信し、地域活性化に努めていきたい、と発表した。

<p><b>自己評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担任は、2者面談、3者面談等により学生の意向を聞きながら速やかに進路を決定し、指導職員会議や担任会議で担任と教務・学生担当が、毎月1回情報を共有しながら進路指導を実施した。また、授業のほかにも、面接や小論文作成、TOEIC、総合適性検査やキャリアカウンセリングなど、学生の進路、職種等に応じて、随時指導を行った。</li> <li>販売実習や流通動向調査は、学生が目的意識を持ち、主体的に取り組み、卒論との関連性等、事前に学習することで学習意欲の喚起が図られている。また、実施に当たっては関係先との連絡調整が必要であるため、コミュニケーション能力の向上につながっている。</li> <li>成果発表会等へは積極的に参加し、きめ細やかな指導を行った結果、東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で上位入賞を果たして全国大会に出場し、プロジェクト発表の部で最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞した。また、ヤンマー学生懸賞論文の部・作文の部では両部門で上位入賞を果たし、全国大会で表彰された。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>C</p>
---	--------------------

<p><b>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年様々な学習に取り組むとともに、全国農業大学校等プロジェクト発表会での最優秀賞・農林水産大臣賞をはじめとした全国レベルでの上位入賞は、素晴らしいことである。→来年度はスマート農林業やGAPに関する学習に取り組む等、今後とも農林業の情勢を踏まえた実践教育の充実に努めていく。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>C</p>
---	--------------------